

第七十三回  
帝國議會  
貴族院

# 商法中改正法律案特別委員會會議事速記録第三號

昭和十三年二月十日(木曜日)午前十一時  
九分開會

○委員長(侯爵大隈信常君) 是ヨリ商法中改正法律案外二件ノ特別委員會ヲ開キマス、其ノ前ニ御諮リ致シマスガ、有限會社法案ノ小委員ヲ御設ケ願ヒマシテ、御審議ヲ願ツクデアリマスガ、小委員ノ方ガ御終了ニナリマシタカラ、小委員長カラ御報告ヲ伺ヒタイト思ヒマス、山岡委員

○山岡萬之助君 小委員會ハ去ル四日、五日、七日、九日ニ互リマシテ審議ヲ致シマシタ、其ノ大要ヲ御報告申上ゲマス、政府ノ説明ニ依リマスレバ、有限會社ハ株式會社ト同様ニ責任ガ有限デアアル、サウ云フ點ノ所カラ企業組織ト致シマシテ、實業界ニ歡迎セラレル所ノ株式會社ト最モ能ク似テ居ル所ノモノデアアル、唯株式會社ハ株主ガ多イガ爲ニ株主間ニ連絡ガナイノデ、其ノ缺點ヲ補フ意味ニ於テ五ニ信賴シタル少數者ガ相集ツテ會社ヲ組織シテ、サウシテ事業ヲ進メテ行クコトガ適當デアアル、斯様ナ次第デ社員相互ノ信賴ト云フコトノ點ガ有限會社ノ特長デアリマシテ、責任ガ資本ノ程度ニ限ラレル點ニ於テ株式會社ト同様デア

ル、今一ツ言ヒ換ヘレバ、合名會社ト社員ノ相互信賴ノ點ニ於テ似テ居リ、責任ノ點デ株式會社ト似テ居ル、斯ウ云フ根本ガ説明セラレテ居リマシタ、仍テ此ノ有限會社ハ少數社員ヲ以テ會社ノ基礎ト致シマス、其ノ少數社員ガ持分ヲ持チマシテ、其ノ持分ハ一口百圓、而シテ最低ノ資本額ハ一萬圓、社員數ハ五十名、斯ウ云フ所ニ基礎ヲ置キマシテ、而モ其ノ資本額ハ全額ノ拂込ヲ必要トスル、此ノ點ガ株式會社ト異ツテ居ル所デアリマス、而シテ社員ノ數ニ付キマシテハ、英國其ノ他ノ例ニ於テ五十名以下デアアル、「ドイツ」系統ノ、「ドイツ」、「オー」等ハ社員ノ數ガ定メテナイ、ケレドモ、資本ノ額ニ依ツテ或程度ニハ止マツテ居ルガ、可ナリ其ノ系統ニ於テハ大キイ有限會社ガアルト云フ次第デアリマス、ソコデ全額拂込ヲ要件ト致シテ居リマスルカラ、若シ全額拂込ノナカッタ場合ニ登記ガ出來タ場合ハ、依ツテ會社ハ成立スルノデアアルカ、或ハ成立ニ付テ問題ヲ生ズルノデアアルカト云フ點ニ付テ質疑應答ガゴザイマシタ、此ノ點ニ付キマシテハ政府ノ説明ハ拂込不足

ノモノガアリマシテモ、或ハ未拂ガアリマシテモ、會社ハ成立スル、然シソレニ付テハ社員若シクハ取締役、監査役等ガ場合々々ニ依ツテ連帶責任ヲ以テ其ノ補填ヲ致スノデアアル、ソレニ依ツテ會社資本ハ何時モ充實サレルコトニナルノデアアル、斯ウ云フ規定デアアルカラ、ソレデ差支ナイノデアアル、斯様ナ説明デアリマシタ、而シテ此ノ連帶義務ハ増資ノ場合ニモ亦適用セラレテ居リマスノデ、何時デモ資本額ト云フモノハ會社ニ充實シテ居ルト云フノガ此ノ會社ノ建前デアリマス、而シテ社員五十人ヲ限リマシテ、廣ク資本ヲ集メテ居ラヌ性質カラ致シマシテ、社債募集ト云フコトハ一切此ノ會社ニハ認メテ居ラナイ、是モ矢張り株式會社ト全ク異ツテ居ル點デアリマス、以上申上ゲタヤウナ點ガ株式會社ト本質的ニ差異ナル點デアリマス、其ノ結果此ノ會社ヲ運用スル上ニ於キマシテモ、色々ト其ノ差ガ存スルノデアリマス、其ノ一二ヲ申上ゲマスレバ、取締役ガ業務ヲ執行スルノデアリマスガ、ソレハ一名デ足りルノデアリマス、勿論數名ヲ置クコトガ出來ルノデアリマス、監査役ガ、一名ニ依ツテ業務執行ガ出來マス、監査役

ハ之ヲ置クト否トハ其ノ會社ノ自由デアリマス、次ニ株式會社ニ於ケル株主總會ト同ジ働キラスル所ノモノガ社員總會デアリマス、社員總會ハ社員ノ數ガ少イノデアリマスカラ、召集手續ヲ極メテ簡易ニ致シマシテ、又場合ニ依レバ書面ノ決議ヲモ認メテ居ル次第デアリマス、斯様ナ次第デ、資本ガ少イノガ通常デアリマスカラ、株式會社ニ於ケルガ如キ整理ヲスルト云フ規定、或ハ解散ノ場合ニ於ケル特別清算ト云フヤウナコトハ、此ノ會社ハ適用致サヌコトニナツテ居ル次第デアリマス、デ、合併若シクハ組織變更ニ付キマシテモ、以上述べマシタル本質ニ從ツテ極メテ狭イ範圍ニ於テ是ガ認メラレテ居ルノデアリマス、ソレカラ株式會社ニ似テ居ルト云フ點カラ致シマシテ、此ノ會社ヲ法則通りニ國家ガ監督シテ參リマスル取締規定デアリマス、ソレハ大體株式會社ニ似テ居ルモノデアリマス、ソレ等ハ法案ニアリマスコトデ、ソレヲ御覽ヲ願ヒタイト思ヒマス、此ノ程度デ大體ノコトハ説明ハ濟セマシテ、次ニ二三ノ質問ノ點ヲ御紹介致シテ置キマス、先ヅ第一ニ有限會社ハ諸國ニ立法例モアリ、是ガ現在便利デア

ノモノガアリマシテモ、或ハ未拂ガアリマシテモ、會社ハ成立スル、然シソレニ付テハ社員若シクハ取締役、監査役等ガ場合々々ニ依ツテ連帶責任ヲ以テ其ノ補填ヲ致スノデアアル、ソレニ依ツテ會社資本ハ何時モ充實サレルコトニナルノデアアル、斯ウ云フ規定デアアルカラ、ソレデ差支ナイノデアアル、斯様ナ説明デアリマシタ、而シテ此ノ連帶義務ハ増資ノ場合ニモ亦適用セラレテ居リマスノデ、何時デモ資本額ト云フモノハ會社ニ充實シテ居ルト云フノガ此ノ會社ノ建前デアリマス、而シテ社員五十人ヲ限リマシテ、廣ク資本ヲ集メテ居ラヌ性質カラ致シマシテ、社債募集ト云フコトハ一切此ノ會社ニハ認メテ居ラナイ、是モ矢張り株式會社ト全ク異ツテ居ル點デアリマス、以上申上ゲタヤウナ點ガ株式會社ト本質的ニ差異ナル點デアリマス、其ノ結果此ノ會社ヲ運用スル上ニ於キマシテモ、色々ト其ノ差ガ存スルノデアリマス、其ノ一二ヲ申上ゲマスレバ、取締役ガ業務ヲ執行スルノデアリマスガ、ソレハ一名デ足りルノデアリマス、勿論數名ヲ置クコトガ出來ルノデアリマス、監査役ガ、一名ニ依ツテ業務執行ガ出來マス、監査役

ルト云フ意味カラ、此ノ法案ヲ提出シタノ  
 デアルカ、或ハ何カソレ以上差迫ツタ理由ガ  
 アツテ、提出シタノデアルカト云フ質問ニ對  
 シテ、政府ハ差迫ツタト云フ理由ハ別ニナ  
 イ、諸國ノ立法例モアリ、實績モ舉ツテ居  
 ル、又實業界ニ於テモ之ヲ、要望シテ居ル、  
 デアルカラシテ、早く之ヲ制定スルト云フ  
 考ハアツタケレドモ、商法ノ改正案ガ審議中  
 デアルカラシテ、ソレノ出來ナイ間ニ有限會  
 社法ヲ作ルト云フコトハ困難デアル、ソレ  
 故ニ差控ヘテ今日ニ及ンダノデアルガ、商  
 法ノ改正案ガ提出セラレタコトデアルカ  
 ラ、茲ニ次イデ此ノ案ヲ提出シタヤウナ次  
 第デアル、斯様ナ説明デアリマシタ、又實  
 業界ト云フノハドウ云フ方面デアルカ、此  
 ノ質問ニ對シマシテハ、司法省其ノ他ノ官  
 廳ヘ各方面カラ書面、口頭デ其ノ必要ヲ申  
 出テ居ル、斯ウ云フ答辯デアリマシタ、次  
 ニ有限會社ハ經濟界ノ實情ニ鑑ミテ必要ダ  
 ト言ハレケレドモ、ソレハドウ云フコト  
 デアルカト云フ問ニ對シマシテハ、責任ガ  
 有限デアルト云フ點ガ合名會社ヤ合資會社  
 ト違ツテ居ル、此ノ點ガ實業界ニ於テ業務ヲ  
 活潑ニ遂行シテ行クニ適シテ居ル、若シ無限  
 責任ダト云フコトニナレバ、業務執行ガ卑  
 屈ニナル、ソレ故ニ有限デアルト云フ點ニ

付テ此ノ會社ガ實業界ニ望マレル所以デア  
 ル、又資本ヲ集メテ事業ヲスルガ、株式會  
 社ノ如ク多數ノ未知ノ人ガ居ラスデ、知合  
 タ人達ガ集リ、即チ信頼アル點ニ付テ特質  
 ガアル、サウ云フ必要カラ此ノ會社ヲ望ム  
 ノデアル、斯ウ云フ答辯デアリマシタ、ソ  
 レカラ別個ノ法案トシテ出シタノハドウデ  
 アルカ、此ノ點ハ屢、論ゼラレマシタ點デ  
 アリマスガ、全ク理論上カラシテ、此ノ法  
 案ニ於テモ商法上ノ會社デアルコトヲ特ニ  
 規定ラシテ居リマシテ、合名、合資、株式  
 會社、株式合資會社ト、全ク商法上五ツノ  
 會社トナルベキモノデアリマスカラ、法典  
 ニナルコトガ理論ノ上カラハ當然デアリマ  
 スケレドモ、五種ノ會社ヲ一ツノ法典ニ纏  
 メルト云フコトハ、規定ガ極メテ老トナ  
 リ、之ヲ扱フニ不便ヲ感ズル、今一ツハ新  
 會社デアリマスルカラシテ、之ガ實際ニ運  
 用シテ改革ナケレバナラヌ點ガアリマセウ  
 シ、從ツテ既ニ長ク運用サレタ會社ト同ジ法  
 典ニ置クコトハ適當デナイト考ヘル、斯フ  
 云フ御説明デアリマシタ、ソレカラ次ニハ  
 此ノ取締役ノ資格ニ付キマシテ多クノ質問  
 應答ヲ重ネラレマシタ、此ノ點ハ株式會社  
 ニ於テ論ジラレマシテ、株式會社ノ取締役  
 ガ株主以外カラ選定シテ宜シイト云フ原案

ニ對シテ、當時現行法ノ如ク株主中カラ選  
 定スルコトガ適當デハナイカト云フ論ガ  
 アツタト同様デアリマス、唯併シ此ノ有限會  
 社ニ於キマスル所ノ論議ニ於キマシテハ株  
 式會社ヨリモ一層格段ナル意味ガアルノデ  
 アリマス、即チ此ノ案ハ「ドイト」系統ト  
 違ツテ、五十人以下ヲ以テ信頼サレタル少數  
 者ニ依ツテ會社ヲ構成スルノデアル、斯ウ云  
 フコトニナリマス云フト、ソレノ「信頼  
 關係ガアル人ガ寄ツテヤル」ガ特質ダト云  
 フ次第デアリマスカラ、脇カラ其ノ業務ヲ  
 遂行スル所ノ幹部ガ入ッテ來ルト、俗ナ言葉  
 デ言ヘバ、飛ビ込ンデ來ル、斯フ云フコト  
 ハ條理上甚ダ不都合デハナイカト云フコト  
 ヲ考ヘマスレバ、株式會社ヨリモ甚ダ不都  
 合ダト云フ理論ガ立ツノデアリマス、又  
 政府ニ於テモ、此ノ點ニ此ノ立案ノ根據ノ  
 重キヲ置イテ、信頼關係ガ此ノ案ノ特質  
 デアルト、斯フ云フ説明デアリマスルカ  
 ラ、自然株式會社ニ於ケル論議以上ニ第三  
 者ノ取締役ニ入ッテ來ルト云フ點ニ付テハ適當  
 デハナカラウデハナイカト云フコトガ考ヘ  
 ラレルノデアリマス、其ノ點ニ於テ質問應  
 答ヲ致シマシタガ、政府ハ是非トモ是ハ矢  
 張り有限ノ點ニ於テ株式會社ト同ジデア  
 カラ、株式會社ニ於テ既ニ第三者ノ取締役

ヲ認メル以上ハ、是非モ認メル必要ガア  
 ル、其ノ點ニ於キマシテ特ニ説明ヲ致シマシ  
 テ、株式會社ニ於テハ多數ノ人ガ其ノ會社  
 ノ基礎ヲ成シテ居ルノデアルガ、有限會社ハ  
 五十人、極メテ少數ナモノデアルカラ、其ノ  
 中カラ業務執行ノ適任者ヲ求メルト云フコ  
 トハナカナカ困難ナ場合ガアル、殊ニ同族  
 會社ニ於テ同族ガ業務執行ニ適當ナモノデ  
 ナイ場合ガ相當アルデアラウ、斯ウ云フ場  
 合ニハ脇カラ適當ナ人ヲ雇フ必要ガアル、  
 而シテ其ノ必要ガアツテ、脇カラ取締役ヲ求  
 メマス場合ニ、若シ社員タルコトヲ要スル  
 コトニ致シマスレバ、或社員ノ持分ト云フ  
 モノヲ其ノ人ニ貸シテヤルト云フコトニナ  
 ル、サウスルト云フト、從來株式會社ニ於  
 テ適當デナカッタ事例、即チ之ヲ與ヘタガ爲  
 ニ民事訴訟ヲ起シタリドウシタリスルヤウ  
 ナコトモ出來テ來ル、殊ニ持分デアリマス  
 カラ、株式ノ如ク委任狀、白紙委任狀ヲ交  
 付シテ、直グ本人ニ戻ル手續ヲシテ置クヤ  
 ウニ簡單ニ行カナイ持分デアアルカラ、ソレ  
 ヲ本人ニ戻スト云フコトニ法律上ノ計畫ヲ  
 樹テルコトハナカ／＼面倒デアリマス、ソ  
 レデアアルカラ一層問題ヲ引キ起ス、況ヤ其  
 ノ人ガ死亡シタ場合ニ於テハ相續人ガ社員  
 トナツテ、一向知ラナイヤウナ人ガ入ッテ來

ルノデアルカラ、一層株式會社ヨリ工合カ  
惡イ、尙其ノ點ガ若シ其ノ會社ニ於テ臨カ  
ラ取締役ノ入ルト云フコトヲ不都合デアル  
ト考ヘルナラバ、定款ニ於テ嚴重ニ規定ス  
レバ、ソレデ足リル、其ノ規定ハ法律上有  
效デアルカラシテ、之ニ依ッテ其ノ各個ノ場  
合ニ於テ要求ガ十分ニ滿タシ得ルノデアル  
カラ、法律ヲ以テ左様ニ強制スル必要ハ何  
處マデモナイ、而シテ尙此ノ社員總會ト云  
フモノガ選任ヲスル又解任ヲスルノデアル  
カラ、氣ニ入ラナケレバ、何時デモ解任ス  
レバ宜シイノデアル、斯ウ云フ風ニ、運用  
上ノ點カラ幾多ノ理論ヲ述ベラレテ、原案  
ヲ強く支持サレタノデアリマス、茲ニ於テ  
小委員會ノ委員諸君ノ考ニ於キマシテモ無  
論兩論アツタ次第デアリマスルガ、既ニ株式  
會社ノ方ニ於テ株主以外ノ者ガ幹部トナラ  
レルコトヲ認メマシタ以上ハ、定款ヲ以テ  
自由ニ制限出來ル規定ト相俟ッテ、先ヅ是ハ  
社員外カラ取締役ガ出テモ、法規ヲサウ云  
フヤウニシテ置クコトハ差支ナカラウト、  
斯ウ云フ點ヲ認メルコトガ適當ダト云フコ  
トニ議論ガ落著キマシテ、原案通りニ、原  
案ヲ修正スルト云フ態度ニハ進マナカッタ  
次第デアリマス、次ニ此ノ資本ノ實額ガ不  
足致シマシテ居ル時ニ、連帶ノ責任ハ一體

何年ソレハ續クモノカト云フ問題ニ對シマ  
シテ、政府ノ答辯ハ、ソレハ別ニ規定ガナ  
イカラシテ、他ノ法規ニ依ッテ時効期間其ノ  
他ノ關係ニ依ッテ消滅スルハ格別、此ノ場合  
ニ別ニ規定ハナイ、否、更ニ一步ヲ進メテ、  
五年間ノ間ハ如何ナル意味ニ於テモ其ノ債  
務ヲ免除スルコトヲ許サナイト、斯様ニ本  
案ハナツテ居ルノデアルト説明セラレテ居  
リマス、ソレカラ次ニ此ノ財産目録ノ點、  
即チ商法ノ三十四條、二百八十五條デアリ  
マスガ、ソレガ此ノ有限會社ニ準用サレテ  
居リマスル所カラ、財産目録ニ付テ議論ガ  
交換サレマシタ、デ財産目録ニ付キマシテ  
ハ、商法ノ改正案ニ於キマシテ、時價ヲ以  
テ財産目録ハ作成スルコトガ原則デアル、  
唯固定財産ニ付キマシテハ原價ヲ以テ記入  
シ得ルト、此ノ規定ノ關係カラ、株式會社  
ニ於テハ假令固定財産ノ時價ガ原價以上ニ  
上リマシテモ、何時モ原價ニ止メナケレバ  
ナラス、斯ウ規定サレテ居リマス、其ノ點  
ニ付テ幾多質問應答ガゴザイマシタ、記録  
ノ上ニ、即チ速記録ノ上ニ明瞭ニナツテ居リ  
マスルカラ、此ノ一々ハ此處ニ申上ゲマセ  
ヌノデアリマス、以上質問應答ノ概要デア  
リマス、尙ソレ等以外マダ詳細ノコトハ速  
記録ニ讓リマシテ、私ノ小委員會ニ於ケル

報告ハ此ノ程度ニ止メマシテ、何か又御質  
問ガゴザイマスレバ、申上ゲマス  
○委員長(侯爵大隈信常君) サウ致シマス  
レバ、此ノ場合ニ全般ニ互ッテ、即チ三法案  
ニ互ッテ御質疑ガ向アリマスマラバ、伺ヒ  
マス  
○山隈康君 法律制定ノ當初ニ於キマシテ  
ハ完全無缺何等ノ瑕瑾ナキモノト認メマシ  
タ法律ガ、實際問題ニ當嵌リ、更ニ進ンデ  
裁判上ノ懸案トナリマスル際ニ於テ種々ノ  
議論ガ起ッテ、之ニ對シテ學說トカ判例等ガ  
區々ニ互ル場合モ少クナイノデアリマス、  
其ノ學說、判例ノ最モ根據トスルノハ、帝  
國議會ニ於ケル質疑應答、是ガ立法ノ精神  
ヲ明白ニスル指針盤トナツテ居ルヤウデア  
リマス、是等ノ見地カラ致シマシテ、疑ハ  
シキモノハ詳細ニ御尋ヲ致シマシテ、立法  
ノ趣旨ヲ明白ニスルコトガ、我々ニ與ヘラ  
レタル權利デアリ、又義務デアルト信ズル  
ノデアリマス、併シ此ノ商法改正案ハ既ニ  
當院デ可決サレマシテ、衆議院ノ審議中  
ニ解散ニ相成リマシタ、殊ニ衆議院デハ大  
法典デアルカラ、繼續委員ヲ設ケテ審議ヲ  
シタイト云フヤウナ意見ガ速記録ニ屢、現ハ  
レテ居ルヤウデアリマス、從ッテ衆議院ノ方  
ノ審議モ相當時間ヲ要スルト存ジマスカラ、

一日モ速カニ衆議院ノ方ニ送付スル必要モ  
アリマセウシ、又他面ニハ從來現行商法ノ  
缺陷ニハ事業界ノ方デモ相當ニ惱ンデ居リ  
マスルカラ、此ノ改正法案ノ實施ノ速カナ  
ラムコトヲ期待シテ居リマス、デアリマス  
ルカラ、私ノ商法改正法律案ニ對シマスル  
先般留保致シマシタル質問モ、成ルベク簡  
單ニ唯僅カニ三點ダケ御尋ネ申シタイ、其  
ノ三點モ第七十議會ニ於キマシテ、小委員  
會デ質問ヲ申上ゲマシタ範圍デアリマシテ、  
其ノ際政府委員ノ御答辯中尙考慮シテ見タ  
イト云フ點、及ビ御答辯ト速記録ニ現ハレ  
テ居リマスル點ガ喰違ヒガナイカ知ラント  
存ジマスル點ニ限ッテ御尋ネ申シタイト存  
ジマス、第一ハ此ノ商法改正法案ノ第八十  
五條、第八十七條ニ互ル御尋デアリマス、  
第八十五條ニ依リマスレバ、第六十八  
條、即チ此ノ定款中ノ二、數種ノ株式ノ發  
行竝ニ其ノ各種ノ株式ノ内容及數、三、株  
式ノ額面以上ノ發行、四、發起人ガ受クベ  
キ特別ノ利益及之ヲ受クベキ者ノ氏名、五、  
現物出資ヲ爲ス者ノ氏名、出資ノ目的タル  
財産、其ノ價格竝ニ之ニ對シテ與フル株式  
ノ種類及數、主トシテ財産ニ關スル規定デ  
アリマス、此ノ場合ニ對シテ總會ガ變更ヲ  
致シマシタ時ニハ、第八十五條ノ第二項

ニ依リマシテ、第七十三條ノ第三項ニ依ッテ引受人ハ其ノ株式ヲ引受テ取消スコトガ出來ル、斯ウ云フコトデ引受人ヲ保護シテ居ルヤウデアリマス、然ルニ第八十七條ノ創立總會ニ於テ定款ニ變更ヲ爲シマシタ場合ニハ、第七十三條ノ第三項ニ依ッテ引受テ取消スコトガ出來ナイ、然ルニ此ノ定款ノ變更中ノ最重要ナルモノハ會社ノ目的タル事業、會社ハ其ノ目的タル事業ガ會社ノ生命デアッテ、引受人モ其ノ目的ニ依ッテ引受テラスル、例ヘバ飛行機ノ製作ヲ目的トスル事業、此ノ事業ハ時代ニ即シタ最モ有益ナル事業デアルト云フコトデ、相當株ノ引受テ致シマシタ、處ガ、ソレガ總會ニ依ッテ目的タル事業ガ吳服販賣ニ變更サレタ、斯ウ云フ場合ニ於テモ尙引受人ノ引受テ取消スコトガ出來ナイト云フコトハ、甚ダ權衡ヲ得ヌデハナイカ、目的ノ變更ト云フコトハ容易ニソレハナイコトデアラウト存ジマスケレドモ、改正商法ノ第六節ノ第三百四十三條ノ末項ニ於キマシテモ「前二項ノ規定ハ會社ノ目的タル事業ヲ變更スル場合ニハ之ヲ適用セズ」トアッテ、法律自カラ目的ノ變更ト云フコトモ既ニ認メテ居ルノデアリマス、目的ノ變更ト云フ重要ナル點ヲ總會デ變更シタル場合ニ於テハ、引

受人ハ引受テ取消スコトガ出來ナイノニ、僅カニ發起人ノ受ケル補償額トカ、或ハ會社ノ負擔ニ歸スベキ設立費用トカ、斯ウ云フモノニ對シテハ不服ノ者ハ引受テ取消スコトガ出來ルト云フコトハ、是ハ權衡ヲ失シタヤウナ感ガアリマス、此ノ點ヲ先ヅ伺ヒタイ、第二ニハ第九十一條ノ場合デアリマス、是ハ現行法ト大體違ハナイヤウデアリマスガ、「詐欺若ハ強迫ヲ理由トシテ其ノ引受テ取消スコトヲ得ズ」、登記ガアッテ會社ガ成立致シマシタ後ニ於テハ、如何ニ強迫ガアッテモ、其ノ強迫ノ理由ニ依ッテ株式ノ引受テ取消スコトガ出來ナイ、是ハ第七十議會ニ於テ御尋テ致シマシタノハ、其ノ強迫ガ總會ノ終了スルマデ、若シクハ終了シタ後マデ繼續シタ場合ニ於テハ、全然意思ノナイ株式ノ引受テアルカラ、ソレモ取消スコトガ出來ナイデアラウカ、ドウデアラウカ、即チ總會ノ成立スル……登記スルマデニ強迫カラ免レテ、取消スコトノ出來ル能力ヲ回復シタニ拘ラズ、取消ヲセズシテ登記シタ場合ニ限ッテ取消スコトヲ得ナイト云フ趣旨デアアルカドウカ、或ハ假令總會ノ成立マデ若シクハ總會ノ成立後マデ強迫ガ繼續シテ居ッテモ、ソレハ會社ノ成立ニ影響スルコトデアアルカラ、假令意思ノナイ引受テモ、ソ

レヲ取消スコトガ出來ナイト云フ風ニ解スベキモノデアアルカ、此ノ點ニ對スル政府委員ノ御答辯ハ斯ウナッテ居リマス、政府委員、「矢張り解釋問題デ甚ダムツカシイノデアリマスガ、強迫ガ會社ノ成立スル迄續イテ居リマシタヤウナ場合ナラバ、取消ガ出來ナイノデヤナイカト思ヒマスルガ、矢張り困難ナ問題デ十分ニ考慮致シタイト存ジマス」、此ノ時ノ御答辯ハ斯ウデナクシテ、強迫ノ繼續シタ場合ニハ取消スコトガ出來ルト云フ趣旨ヲ御答辯アツカカノヤウニ拜承シタノデアリマス、或ハ此ノ速記録ノ通リカモ知レマセヌ、念ノ爲ニ此ノ點御伺ヒ致シマス、第三點ハ是モ前回御尋ネ致シマシタ點デアリマスガ、條文ヲチョット見付ケ出セマセヌガ、此ノ記名株式ニ對シテ質權ヲ設定致シマシタ際ハ、會社ハ質權者ニ對シマシテ、會社ノ利益配當若シクハ分配ト云フヤウナコト、斯ウ云フモノヲ請求ニ依ッテ會社ハ支拂フノ義務アリヤト云フ問ニ對シマシテ、其ノ通り義務ガアル、ソコデ私ノ疑問ニ存ジマスルノハ、サウ云フ場合ニ若シ其ノ質權者ノ權利ガ免除、或ハ一部若シクハ全部ノ辨濟、或ハ相殺等ニ依ッテ消滅シタ場合ニハドウカ、ソレニ對シテ政府委員ハ左様ナ危険モアルコトハ確カデアルト云

フ御答ヲ得テ居ルノデアリマス、ソコデ私ノ更ニ疑ノ存シマスル所ハ、一部ノ辨濟、全部ノ辨濟、若シクハ其ノ他ニ依ッテ消滅シタ質權者ニ對シテ、會社ガ支拂ツタ場合ニ於ケル會社ト株主ノ法律關係、此ノ場合ハ會社ノ方デハ、請求ニ依ッテ初メ質權ノ設定セラレタル金額ヲ基準トシテ支拂ツタノデアリマスルカラ、會社自身ニハ過失ハナイヤウデアリマスルケレドモ、株主ニ對シテハ、株主即チ債務者、質權ヲ設定致シマシタル債務者其ノモノハ、自分ノ債務デナイ既ニ辨濟サレタ債務ヲ、會社ガ支拂ツタノデアリマスルカラ、ソレハ支拂シナカッタモノトシテ、株主ハ會社ニ對シテ利益配當、其ノ他解散ノ場合ニ於ケル殘餘財産ノ分配請求權ガアルカドウカト云フ點、是ハドウモ此ノ點ハ餘程問題デハナイカト思フノデアリマス、他ノ法律ニヨク見マスルヤウニ、株主タル債務者ガ質權者ニ對シテ、相殺ニ依ッテ消滅ラシタ、一部、全部ノ免除ヲ得タ、辨濟ラシタト云フ時ニハ、債務者カラソレヲ會社ノ方ニ届ケル、私ノ設定シタル債權ハ是々ニ依ッテ辨濟ラシマシタ、消滅ラシマシタト云フコトヲ届出ラセシメタ場合ニ於テハ、債務者ハソレヲ以テ會社ニ對抗出來ル、斯ウ云フヤウナ、他ノ多クノ場合ニハ規定ガアッ

テ保護ラシテ居ルヤウデアリマスルガ、或ハ他ノ條文等ニ其ノ會社ヲ保護シ、若シクハ株主ノ權利ヲ全ウスル條文ガアルカモ知レマセヌガ、マダ精讀シテ居リマセヌカラ……

○政府委員(大森洪太君) 只今ノ御尋ノ劈頭ニ當リマシテ、誠ニ御懇篤ナル御言葉ヲ拜承致シマシテ、先ヅ以テ御禮ヲ申上ゲタ

イト思ヒマス、御質問ノ第一點デアリマス第百八十五條ニ於キマシテ、株式ノ引受ヲ取消スコトノ出來ル途ヲ開キマシタ其ノ趣旨ハ、只今御指摘ニ相成リマシタ通りデア

リマス、是ハ申ス迄モナク、特定ノ引受人ニ關スルモノデアリマシテ、例ヘテ申シマスルト、甲ト云フ引受人ガ現物出資ヲ致シマシテ、其ノ現物出資ニ對シテ、千株貰フ

ト云フコトニナツテ居リマシタ場合ニ、是ガ七百株ニ減少サレマシタ、左様ナ場合ニ七百株デ甘シジテ居ルコトガ出來レバ宜シイ

ノデアリマスケレドモ、常ニ七百株デ甘シジナケレバナラナイト云フコトハ、是ハ氣ノ毒ナ話デアアル、左様ナ關係カラ致シマシ

テ、是ガ爲ニ此ノ特定ノ不利益ヲ受ケル引受人ノ取消權ヲ認メタヤウナ次第デアリマス、然ルニ第百八十七條ノ創立總會ニ於ケル定款變更ノ際ニ於ケル目的ノ變更、是ハ御承

知ノ通りニ、特別決議デアルノデアリマシ

テ、從ツテ引受人總體ニ關スル一般ノ問題デアリマス、ソレデアリマスルカラ、目的ノ變更ニ依リマシテ、自分達ノ引受ノ趣旨ニ反スルモノト考ヘマスルナラバ、是ハ其

ノ者ガ必ズヤ反對ノ投票ヲ致シマセウ、デアリマスルカラ、此ノ目的ハ全般的ノ問題デアツテ、全般的多數ノ意思デ決定ヲスルノ

デアリマスルカラ、此ノ際ニ特ニ引受取消ト云フコトヲ規定スルコトハ、却テ相當デハナクナルノデハナイカ、斯様ニ考ヘタ次

第デアリマス、尙御承知ノ通りニ、會社成立後ト雖モ、定款ノ變更ニ依ツテ、目的ノ變更ガ出來ル次第デアリマシテ、左様ナ場合

ニ、株主ガ株主タル地位ヲ脫退スルト云フ譯ニハ參ラナイノデアリマスルカラ、彼此對照致シマシテ、第百八十七條ノ方ニ、引

受取消ノ途ヲ開カナカッタト云フコトハ、寧ロ適當デハナイカト存ズルノデアリマス、ソレカラ第二點デアリマスルガ、昨年私ノ申

上ゲタ所ガ甚ダ明快ヲ缺イタヤウデアリマシテ、其ノ爲ニ御手數ヲ掛ケテ甚ダ恐縮ニ存ズルノデアリマス、御設例ノ場合ニ於テハ、矢張り此ノ法文ノ解釋トシテハ取消ス

コトヲ得ナイモノト解釋スルノ外ハナイト思フノデアリマス、併シナガラ是ハ強迫、詐欺ノ程度デアリマシテ、若シ意思欠缺ト云

フヤウナ、當然無効ノ場合ナラバ、是ハ別箇ノ問題デアリマスルケレドモ、御設例ノ如ク、詐欺、強迫ノ問題デアリマスル限りハ、矢張り取消スコトヲ得ザルモノト解ス

ルノデアリマス、左様ナ場合ニハ不都合デヤナイカト云フコトハ起リマセウケレドモ、左様ナ場合ハ、恐ラクハ事案トシテサウ屢

ハナイコトデアリマセウ、左様ナコトノ爲ニ、會社創立ノ基礎ヲ固クスルト云フヤウナ、此ノ法文ハ矢張り維持ヲシナケレバナ

ラナイト存ジタ次第デアリマス、第三點デアリマスルガ、御指摘ノ場合ハ第二九九條ノ登錄質ノ問題デアラウト拜察スルノデア

リマス、此ノ登錄質ノ場合ハ、御承知ノ通りニ質權ヲ會社ニ通知ラシテアルノデアリマスルカラ、若シ其ノ後債權ガ辨濟又ハ免

除ニ依リマシテ、全部若シクハ一部ガナクナリマシテモ、之ヲ以テ會社ニ對抗スルコトハ出來ナイ譯デアリマス、從ツテ會社ガ

質權者ニ對シテ爲シタ辨濟ハ有效デアリマシテ、唯質權者ト株主トノ此ノ當事者間ノ不當利得ノ問題ヲ生ズルダケデアルト思フノデアリマス、然ラバ只今御示シノ通り、左様ナ免除ナリ辨濟ナリシタ場合ニ、ソレヲ會社ニ通告シテ、其ノ通告ヲ以テ會社ニ對抗スルト云フヤウナ法文ヲ置イテ置イタ

方ガ宜クハナイカ、斯ウ云フ御說デアリマシタガ、誠ニ結構ダト存ズルノデアリマス、併シソレ迄規定ヲ致シマスルト、規定ガ甚ダ錯雜ニ互ルノデアリマシテ、其ノ點ハ法律上對抗力アル若シクハナイト云フ點ハ規定ヲ差控ヘタ次第デアリマス、實際上ノ問題ト致シマシテ、會社ニ十分通知ラシテ、

會社ガソレヲ守ルト云フコトニナリマスレバ、運用上間違ガナイダラウト、斯様ニ考ヘマシテ、只今御指摘ノ第二次ノ辨濟若シクハ免除ヲ得タル旨ノ通知ノ對抗力ニ付テハ、規定ヲ設ケナカッタ次第デアリマス、

左様ニ御諒承ラヒタイノデアリマス

○山隈康君 私ノ質問ハ大體是デ終了致シマシタ

○委員長(侯爵大隈信常君) 外ニ御質問ハゴザイマセヌデスカ、御質問モナイヤウニ……

○伯爵黒木三次君 私ハ先般有限會社法律案ガ本議場ニ提出サレマシタ時ニ、土方博士カラ御質問ニ相成ツタコトニ關聯致シマシテ、寧ロ私ノハ議事進行ノ質問位ニナル

ノデゴザイマセウガ、伺ヒタイト斯ウ思フノデアリマス、ソレハ土方博士ノ御心配ノ點モ御尤ナ所ト存ジテ居リマスルニ、政府委員ノ之ニ對スル御答ガ甚ダ不十分ト申上ゲ

テハ如何カト思ヒマスガ、サウ云フ風ナコト  
 デゴザイマシテ、我々同ジク會派ノ者ノ中  
 デモ其ノ點ニ付テ多少不滿ヲ申サレル方  
 モゴザイマスルカラ、若シカ是ガ本議場  
 ニ御報告ノ後デ又斯ウ云フヤウナコトハ  
 委員會ニ於テ質疑應答ガアツタヤ否ヤト云  
 フヤウナコトモ起ラナイトモ限リマセヌカ  
 ラ、其ノ點ヲ懸念致シマシテ、是ハ私ハ自  
 分ノ質問チヤナイト思ヒマスルガ、人ノコ  
 トデゴザイマスルガ、斯ウ云フ風ナ意味合  
 デ私ガ御尋ネシテ居ルト云フコトヲ御諒承  
 ノ上デ少シ詳カニ御説明ヲ願ヒタイト斯ウ  
 思ヒマス、ソレハ一ツノ點ハ既ニ小委員長  
 ノ御報告ノ中ニアツタトハ存ジマスルガ、重  
 ネテニナリマスケレドモ、モウ一應言ハシ  
 テ戴キタイト思ヒマス、ソレハ一點ト致シマ  
 シテ、少數ノ事業ノ經營ニハ便宜デアラウ  
 ケレドモ、其ノ便宜ガ却テ禍ヲナス原因ニ  
 ナラヌトモ限ラナイチヤナイカ、此ノ譯ヲ  
 モウ少シ話シテ貰ヒタイト云フ斯ウ云フ御  
 問ダツタト思ヒマスガ、此點ニ關シテ御答  
 ハ甚ダ不十分ト思ヒマス、第二ノ點ガ小委  
 員會デ既ニ多少ノ御質疑ガアツタト思ヒマ  
 スコトデゴザイマスガ、ソレハ經濟界ノ實  
 情ニ鑑ミト云フヤウナコトデアリマスル  
 ガ、果シテ是ハドウ云フコトデアラウカ、

土方博士ハ自分ハ實業界ニハ縁ガ遠イケレ  
 ドモ、多分ソレハ軍需工業ニ關スル部分品  
 ノ下請ト云フヤウナモノデアツテ、是ハ平  
 和ガ來タ時ニハ、反動デ非常ニ困難ナコト  
 ガ債權者ニカ、ツテ來ルノデヤアルマイカ  
 ト云フヤウナ御心配デゴザイマシタ、ソレ  
 ニ付テモ御答ハ甚ダ不十分ダツタモノデ畢  
 竟サウ云フコトガ起ツタト思ヒマスルカ  
 ラ、此ノ二點ニ關シマシテ政府ノ御答辯ヲ  
 得テ置キタイト、斯様ニ思フ次第デゴザイ  
 マス

○政府委員(大森洪太郎) 前回本會議ニ於

キマシテ、土方先生カラ御質問ガアリマシ  
 タ、其ノ際ノ政府ヨリノ答辯ガ極メテ簡單  
 ニ過ギタコトニ付テハ、私共恐縮ニ存ジテ  
 居ル次第デアリマス、ソレデ只今此ノ點ニ  
 關シテ御答辯ヲ致シ得ル機會ヲ與ヘラレタ  
 コトニ付キマシテハ、誠ニ有難ク存ズル次  
 第デアリマス、第一點デアリマスルガ、有  
 限會社ガ企業組織ニ極メテ適當デアルト云  
 フコト、及ビ有限會社法ヲ認メテ居リマス  
 ル各國ニ於キマシテ其ノ實績上其ノ有限會  
 社ガ誠ニ重寶デアツテ、而モ重大ナル活躍  
 ラシテ居リマスルコトハ、御承知ノ通りデ  
 アリマス、ソレデ之ガ企業組織トシテ歡迎  
 セラル、所以ハ、蓋シ有限責任ノ社員ヲ以

テ組織ヲスルケレドモ、其ノ組織ナリ管理  
 ナリガ比較的小規模デアル、簡單デアル、  
 内輪デアルガ爲ニ便宜デアルト云フコトニ  
 主モニ存スルデアラウト思フノデアリマス、  
 然ラバソレガ爲ニ却テ弊害ヲ生ジヤシナ  
 イカト云フ點ヲ慮レルノデアリマス、此ノ  
 法案ニ於キマシテモ有限會社ノ設立ハ株式  
 會社ニ比シテ誠ニ容易ニナツテ居リマス、併  
 シ此ノ設立ガ容易ニナツテ居リマスル一面  
 ガアリマスルケレドモ、他面ニ於キマシテ  
 ハ、此ノ案デ御承知ノ通りニ出資ナリ、現  
 物出資ナリ、是ハ全部拂込提供ヲ要スルモ  
 ノニシテ、其ノ基礎ノ確實ヲ期シマシタ、  
 是ハ第十二條ニ規定ガアル所デアリマス、  
 又ソレ等ニ付テ未済ナリ又瑕疵ガアリマス  
 ルナラバ、之ニ對シテ連帶シテ填補スルト  
 云フ責ヲ規定シタノデアリマス、又ソレ  
 等ノ填補義務ニ付テ五年間ハ決シテ免除ガ  
 出來ナイ、斯ウ云フ規定モ置イタノデアリ  
 マス、此ノ基礎ノ確實ト云フコトニ付テハ、  
 株式會社以上ノ規定ヲ以テ之ニ臨ンダ次第  
 デアリマス、尙債權者ヲ保護スル關係ニ於  
 キマシテハ、例ヘテ申シマスルト、資本減  
 少ナリ又合併ナリ、或ハ組織變更ノ場合等  
 ニ付キマシテ、株式會社ト同様ニ債權者ヲ  
 保護スル手續ヲ取ラナケレバナラナイノデ

アリマシテ、是等ニ付テモ債權者ニ對スル  
 關係ニ於テハ缺クル所ガナイカノ如ク存ズ  
 ルノデアリマス、又詐害ノ設立ニ付キマシ  
 テ矢張り株式會社ト同様ニ此ノ取消請求權  
 ヲ認メテ居ル次第デアリマス、尙只今モ申  
 述ベマシタ通りニ、有限會社ノ設立ガ比較  
 的株式會社ヨリモ容易デアリマスル關係上  
 憂慮ヲ致シマスルノハ、有限會社ヲ假ニ設  
 立ヲ致シマシテ、之ヲ後ニ何等カノ方法ニ  
 依リマシテ株式會社ニ引直ス、即チ株式會  
 社ノ設立ノ嚴重ナル規定ヲ潜脱スルト云フ  
 弊害モ考ヘ得ラレルノデアリマスルカラ、  
 有限會社ガ株式會社ト合併ヲ致シマシテ株  
 式會社トナリマスル場合、又有限會社ガ組  
 織變更ヲ致シマシテ株式會社トナリマスル  
 場合、是等ニ付キマシテハ其ノ財産ニ付テ  
 モ相當嚴重ナル規定ヲ以テ臨ミマシタ外ニ、  
 裁判所ノ認可ヲ要スルモノト致シマシタ、  
 デアリマスルカラ、此ノ案自體ト致シマシ  
 テハ、有限會社ノ設立ハ簡單ニハナツテ居リ  
 マスルケレドモ、之ガ爲株式會社設立ノ規定  
 ヲ潜ルト云フヤウナコトガナイヤウニ、又  
 有限會社ノ設立ナリ、又存続ナリニ付キマ  
 シテ、債權者ニ對スル關係ニ於テハ、株式  
 會社ト殆ド同様ニ、相當強キ規定ヲ以テ臨  
 ンデ居リマスルカラ、先ヅ債權者ニ對スル

テ組織ヲスルケレドモ、其ノ組織ナリ管理  
 ナリガ比較的小規模デアル、簡單デアル、  
 内輪デアルガ爲ニ便宜デアルト云フコトニ  
 主モニ存スルデアラウト思フノデアリマス、  
 然ラバソレガ爲ニ却テ弊害ヲ生ジヤシナ  
 イカト云フ點ヲ慮レルノデアリマス、此ノ  
 法案ニ於キマシテモ有限會社ノ設立ハ株式  
 會社ニ比シテ誠ニ容易ニナツテ居リマス、併  
 シ此ノ設立ガ容易ニナツテ居リマスル一面  
 ガアリマスルケレドモ、他面ニ於キマシテ  
 ハ、此ノ案デ御承知ノ通りニ出資ナリ、現  
 物出資ナリ、是ハ全部拂込提供ヲ要スルモ  
 ノニシテ、其ノ基礎ノ確實ヲ期シマシタ、  
 是ハ第十二條ニ規定ガアル所デアリマス、  
 又ソレ等ニ付テ未済ナリ又瑕疵ガアリマス  
 ルナラバ、之ニ對シテ連帶シテ填補スルト  
 云フ責ヲ規定シタノデアリマス、又ソレ  
 等ノ填補義務ニ付テ五年間ハ決シテ免除ガ  
 出來ナイ、斯ウ云フ規定モ置イタノデアリ  
 マス、此ノ基礎ノ確實ト云フコトニ付テハ、  
 株式會社以上ノ規定ヲ以テ之ニ臨ンダ次第  
 デアリマス、尙債權者ヲ保護スル關係ニ於  
 キマシテハ、例ヘテ申シマスルト、資本減  
 少ナリ又合併ナリ、或ハ組織變更ノ場合等  
 ニ付キマシテ、株式會社ト同様ニ債權者ヲ  
 保護スル手續ヲ取ラナケレバナラナイノデ

關係ニ於テハ心配ハナイカト存ズル次第デアリマス、尙第二ノ點デアリマスルガ、有限會社ガ那樣ナ企業組織デアリマスルガ爲ニ、實業界ニ非常ニ是ガ歡迎セラレマシテ、餘程以前カラ司法省ナリ其ノ他ノ官廳ニ對シマシテ有限會社は認スベシト云フ要求ガアツクデアリマス、現ニ御承知ノ通りニ同族會社ガ株式會社ト云フ形デ以テ多ク設立ラセラレテ居リマスルガ、是ナドハ有限會社法ガナイカラ、已ムラ得ズ株式會社トシテ設立ラシタモノデアリマセウ、若シ有限會社ガ出來テ居リマスルナラバ、思フニ有限會社トシテ組織ラセラレタモノト存ズルノデアリマス、又敢テ同族會社ニ限リマセズ、凡ソ有限會社ト云フモノハ先程申上ゲマシタ通りニ手頃ナモノデアルト云フ關係カラ、大イニ歡迎セラレルコトデハナイカト思フデアリマス、軍需工業ニ付テノ御話ガアリマシタガ、有限會社ガ特ニ軍需工業ノ關係カラ歡迎セラレルト云フ特段ノ理由ガアルトハ別ニ考ヘナイノデアリマス、今日軍需工業ガ盛ンデアリマスル關係カラ特ニ有限會社ノ必要ヲ痛感シタト云フ譯デハナイノデアリマシテ、從來カラ有限會社は認メ希望ガ多クアツクデアリマシテ、此ノ希望ニ副フタ次第デアリマス、軍需工業ガ若シ

一朝ニ致シマシテ今日ノヤウナ盛觀ヲ失フト致シマスルナラバ、經濟界一般ニ恐ラクハ相當ノ打撃ヲ與ヘマセウ併シハ有限會社ニノミ打撃ヲ與ヘルト云フ譯デハナイノデアラウト思ヒマスルノデ、恐ラクハ一般的傾向トシテ現ハレテ來ルコトカト存ズルノデアリマス、即チ有限會社ヲ拵ヘマスルコトハ、決シテ軍需工業其ノ特殊ノ爲ニ生ジタコトデハナイノデアリマス、唯此ノ事變中ナリ又事變後ニ於キマシテ會社ガ多ク起リマセウ、左様ナ場合ニ在來ノ四種類ノ會社ヨリモ更ニ第五種ノ會社ヲ認メ、會社ノ種類ガ殖エタト云フコトハ、是等ノ經濟界ノ活動ヲ助ケルコトニハナリマセウケレドモ、今日ノ此ノ機會ヲ狙ッテ有限會社法案ト云フモノヲ立案シタ次第デハナイノデアリマス、左様ニ御了承ヲ願ヒタイノデアリマス

○伯爵黒木三次君 私ノ質問ハ是デ終リマス

○委員長(侯爵大隈信常君) モウ皆サン御質問如何ガゴザイマセウカ……モウ大抵皆様御濟ミニナツタヤウニ拜承致シマス、然ラバ此ノ法案ノ討論ニ入りマサガ、討論ニ入りマシテ御異議ガゴザイマスマイカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○委員長(侯爵大隈信常君) ソレデハ是カラ討論ニ入りマス、先ヅ商法中改正法律案ト商法中改正法律施行案ト、此ノ二ツヲ議題ニシタイト思ヒマス

○子爵八條隆正君 商法中改正法律案ハ度々此ノ委員會ノ席上デモ御意見中ニ出マス通り既ニ第七十議會ニ於キマシテ本院ヲ通過シタ案デアリマシテ、今回ノ御提案ハ貴族院ニ於テ當時修正セラレタ點モ其ノ修正ヲ容ラレ、其ノ他衆議院ノ委員會ノ空氣等モ察セラレマシテ、僅カナル修正ヲ加ヘラレテ提案セラレタモノデアリマシテ、今回ノ提案ニ依リマシテ當委員會ニ於テ再檢討ラセラレマシテモ何等修正其ノ他手ヲ著クベキ必要モナイヤウニ思ハレマス、私ハ商法中改正法律案ノ原案ニ賛成致シマス、又商法中改正法律施行法案モ商法ノ改正ニ伴ヒマシテ必要トスル法案デアリマスノデ、是亦私ハ原案ニ賛成致シマス

○山隈康君 私モ兩案共原案ニ賛成ノ一人デアリマスガ、茲ニ一ツノ希望ヲ申述ベタイト思ヒマス、先刻小委員長ヨリ有限會社法ニ對シテ、質疑應答ノ詳細ナ報告ガゴザイマシタガ、其ノ中ニ社員外カラ取締役ヲ……

○委員長(侯爵大隈信常君) チョット山隈君ニ御注意致シタイト思ヒマスガ、今マダ

有限會社法案ノ方ニ入ッテ居リマセウ

○山隈康君 ソレデヤ後デ申シマス、ソレデハ商法改正案ニ對シマシテハ全然贊同ヲ致シマス

○委員長(侯爵大隈信常君) 別ニ御異議ハナイヤウニ思ヒマスガ、兩法案共決シテ宜シウゴザイマスカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○委員長(侯爵大隈信常君) ソレデハ是ハ可決サレタコトニ致シマス、次ニ有限會社法案ニ移リマス、此ノ討論ニ移リマス

○子爵八條隆正君 再ビ發言致シテ恐縮ニ存ジマスガ、有限會社法案ハ是ハ新シイ試ミデアリマスガ、政府ニ於テ本法案ヲ提案サレマス以前ニ於キマシテ、御説明ノ如ク各種ノ専門家ヲ集メタル委員會ニ於キマシテ慎重審議セラレタ其ノ際ニ生レタモノデアリマス、今日ノ社會ノ實況、要望等ヲ容レラレマシテ立案サレマシタモノデアリマス、既ニ外國ニ於テモ經驗ヲ經タモノデアリマス、今日我が國ニ於テ行ハレマシタナラバ、相當社會ニ於テ便宜ヲ感ズルモノダト存ジマス、實行上或ハ他日改正ヲ要スル點モアラウトハ存ジマスガ、是ハ新シイ法律デアリ、新シイ試ミデアル爲デアリマシテ、ソレハ又他日ノ改正ニ俟ツコトト致シ

マシテ、兎ニ角本法律ガ實施セラレマシク  
ナラバ、相當便益ヲ得ルコトト存ジマシテ、  
私ハ本案ニ賛成致シマス

○山隈康君 私モ本案ニ賛成スル一人デア  
リマスガ、社員以外ヨリ取締役ヲ選任ラス  
ルト云フコトノ立法ノ根本趣旨ハ、其ノ自  
治、其ノ會社ノ自治ヲ尊重スルト云フコト  
ガ主ナル理由ノヤウデアリマス、唯之ニ對  
シテ多少ノ懸念ヲ懷キマスルコトハ、特許  
若シクハ其ノ他許可ヲ要スルヤウナ會社ニ  
對シマシテ、或ハ取締役ヲ他ヨリ強要スル  
ガ如キ弊ハナイカ、其ノ點ガ最モ民間デ心  
配ヲ致シマスル點デアリマス、デ、政府ニ  
於カレマシテモ此ノ法律ノ趣旨ガ全ク有限  
會社ノ自治、其ノ自由意思ニ決定スベキモ  
ノデアツテ、他ヨリ強要等ニ依ツテ心ニモナ  
キ取締役ヲ選任スルト云フヤウナコトノナ  
イヤウニ、此ノ趣旨ノ徹底、政府ノ之ニ對  
スル格段ノ御注意ヲ願ヒタイト存ジマス、  
此ノ希望ヲ附シマシテ、案ヲ全然賛成致シ  
タイト存ジマス

○委員長(侯爵大隈信常君) 別ニ御異議ハ  
ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○委員長(侯爵大隈信常君) ソレデハ是ハ  
可決サレタモノト致シマス、之ヲ以テ散會

スルコトニ致シマス

午後零時八分散會

出席者左ノ如シ

委員長 侯爵大隈 信常君

副委員長 山岡萬之助君

委員

公爵島津 忠承君

伯爵黒木 三次君

子爵八條 隆正君

子爵舟橋 清賢君

中川 健藏君

松本 丞治君

男爵松岡 均平君

男爵伊藤 文吉君

男爵奥田 剛郎君

森 平兵衛君

磯村豊太郎君

山隈 康君

岩田 宙造君

政府委員

司法省民事局長 大森 洪太君

司法書記官 齋藤 直一君